



文部科学省 国立大学改革強化促進補助金

千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター

平成 28 年度 事業報告書

平成 29（2017）年 3 月

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
III. センターの取り組みと成果（平成 28 年度）	9
1. 教育	9
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	9
2) 新たな IPE プログラムの開発	11
3) FD の充実	12
2. 実践・社会貢献	17
1) IPE 研究拠点からの発信	17
2) IPW の促進	17
3) 政策提言	18
3. 研究	18
1) 研究プロジェクトの組織化、研究の推進	18
4. 組織運営	20
1) 予算と人材の確保	20
2) PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）に基づく組織運営	20
3) IPERC の将来構想	21
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	22
1. 平成 28 年度外部評価委員会の開催	22
2. 外部評価委員による講評	23
3. 外部評価委員の講評のまとめ	25
V. 資料	27
（資料 1）IPERC 事業目標	27
（資料 2）学習のまとめ（別冊）	28
（資料 3）亥鼻 IPE 数値実績	28
（資料 4）平成 28 年度 試行事業報告 クリニカル IPE（別冊）	30
（資料 5）地域貢献事業実績	30
（資料 6）プロジェクト研究共同研究員募集要項	33
（資料 7）平成 28 年度研究業績	34

I. ごあいさつ

看護学研究科附属専門職連携教育研究センターは「次世代対応型医療人育成と治療学創生のための亥鼻キャンパス高機能化構想」を展開する「未来医療教育研究機構」に位置付けられ 2015 年 1 月 1 日に開設されました。本報告書は、IPERC の 3 年目の事業をまとめました。

平成28年度は、未来医療教育研究機構のガバナンス拡大を達成目標に、亥鼻キャンパス改革・機能強化構想の推進、事業内容の中間点検、機構による取組の評価・発信、人事・給与システムの弾力化が設定されていました。そのため、IPERC の活動目標はこの達成目標に向けて以下のように設定し活動をしてきました。①亥鼻 IPE の発展・進化にむけ、亥鼻 IPE の評価及び安定的実施およびあらたな IPE プログラムの開発、②多様な研究プロジェクトの組織化、研究の推進、③千葉大学病院および千葉県、全国の医療介護施設における IPW 推進のためのコンサルテーション及び現任教員プログラムの開発・評価でした。

平成28年度の IPERC 事業において特筆すべき点は以下の3点です。①亥鼻 IPE の発展形である、クリニカル IPE（診療参加型 IPE）の実施を前年度の2診療科から10診療科に増加させ、合計45名の医学部（5年）・看護学部（4年）・薬学部（5年）が参加したこと、②平成27年度までに開発・実施してきた千葉大学の IPE プログラムをより進化発展させるために、海外での情報収集のもと、亥鼻キャンパスの教職員を対象とした、INOHANAFD プロジェクトを多様なステークホルダーと連携しながら立ち上げ、FD を充実させたこと、③IPE の実施に関するコンサルテーションおよび研修を実施したこと。

平成27年度に活動のしくみを構築したことによって、平成28年度は活動拡大の可能性を模索し、拡大を試みた1年といえるでしょう。

IPERC の活動において解決すべき課題が明確になった1年でもありました。①IPERC の活動継続性を確実なものとするために、外部資金等を積極的に獲得する必要があること、②亥鼻 IPE の系統的评价のもとにさらなる改善を行う必要があること、③大学を取り巻く環境の変化に適応し、IPERC のあり方の再検討を行う必要があること、これらは、1年間の活動に外部評価から得られた貴重な課題です。関係者一同、連携と協働をこころがけながら、平成29年度鋭意取り組みたいと思います。

最後に、平成28年度の IPERC 事業および亥鼻 IPE にご協力をいただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月 21 日
センター長 酒井郁子

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 年 2 月 23 日、平成 27 年度第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（1）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（2）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

（3）研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（4）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

2. 組織

当センターは、看護学研究科の研究・教育施設として位置づけられている。センター教員は、特任教員と3学部から兼務教員である。下記に組織図および各会の名簿を示した。

センター教員は「教育実践研究部会」を年2回開催し、研究、教育・実践、および研修活動として、下記の活動を行っている。

研究として

- ・ IPE の評価研究、理論化、データ蓄積
- ・ IPW の理論化、実証研究、橋渡し研究
- ・ IPE (学部・大学院) 及び IPW プログラムの開発・普及
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

教育・実践として

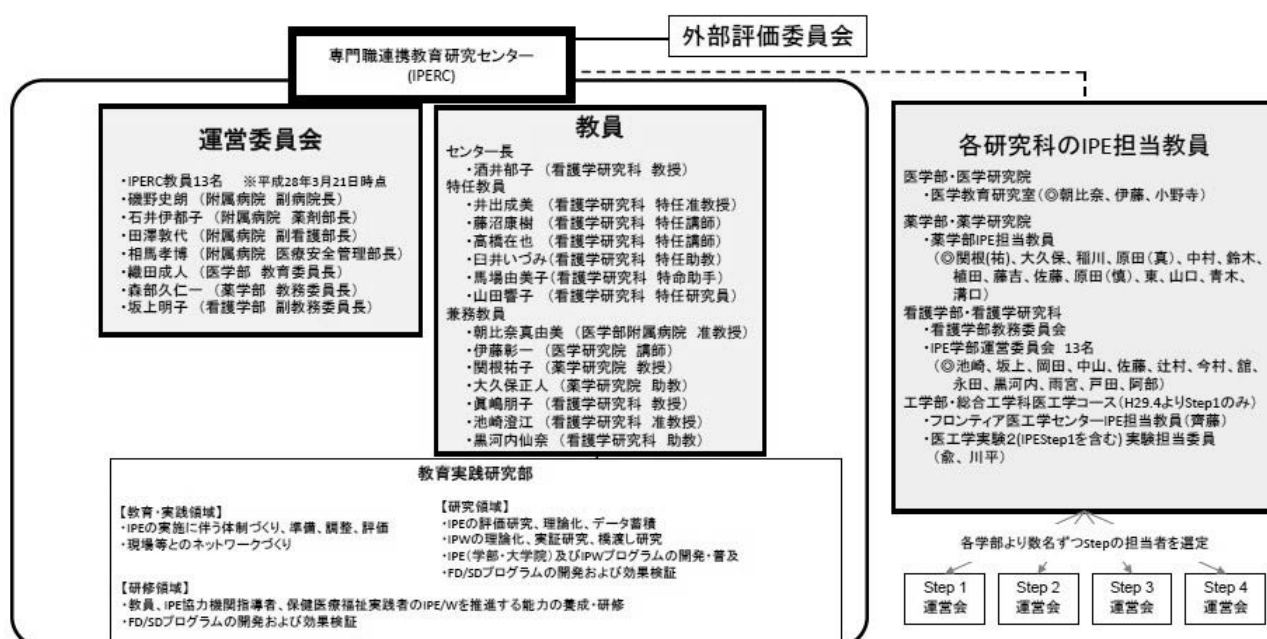
- ・ 3 学部等のメンバーによる IPE の実施に伴う準備・調整・体制づくり・評価
- ・ 現場等とのネットワークづくり

研修として

- ・ 教員、IPE 協力機関指導者、保健医療福祉実践者の IPE/W を促進する能力の養成・研修
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

また、「教育実践研究部会」は、センター教員が部会員であり、3 学部と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。センターの運営については、センター長、センター教員の他、3 学部の教務委員長および附属病院に委員を依頼し、定期開催している。また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。センターの事務所管は、看護学部事務部センター事業支援係が担当することとなった。亥鼻 IPE は、看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携して行っている。

IPERCと亥鼻IPE の組織図 2017.3.21.時点



平成 28 年度センター職員名簿

センター長

- ・酒井 郁子（看護学研究科 教授）

特任教員

- ・井出 成美（看護学研究科 特任准教授）
- ・藤沼 康樹（看護学研究科 特任講師）
- ・高橋 在也（看護学研究科 特任講師）
- ・臼井いづみ（看護学研究科 特任助教）
- ・山田 響子（看護学研究科 特任研究員）
- ・馬場由美子（看護学研究科 特命助手）

兼務教員

- ・関根 祐子（薬学研究院 教授）
- ・眞嶋 朋子（看護学研究科 教授）
- ・朝比奈真由美（医学部附属病院 准教授）
- ・池崎 澄江（看護学研究科 准教授）
- ・伊藤 彰一（医学研究院 講師）
- ・大久保正人（薬学研究院 助教）
- ・黒河内仙奈（看護学研究科 助教）

事務補佐

- ・高野 佳奈
- ・吉岡 智子

平成 28 年度センター運営委員名簿

- ・磯野 史朗（附属病院 副病院長）
- ・石井伊都子（附属病院 薬剤部長）
- ・田澤 敦代（附属病院 副看護部長）
- ・相馬 孝博（附属病院 医療安全管理部長）
- ・織田 成人（医学部 教育委員長）
- ・森部久仁一（薬学部 教務委員長）
- ・坂上 明子（看護学部 副教務委員長）
- ・センター教員

平成 28 年度センター外部評価委員名簿

- ・川島 啓二（九州大学基幹教育院 教授）
- ・田邊 政裕（千葉県立保健医療大学 学長）
- ・渡邊 秀臣（群馬大学大学院保健学研究科 教授）
- ・富田 薫（千葉市保健福祉局地域包括ケア推進課 課長）
- ・永田由美子（千葉大学医学部 SP（模擬患者）会）

3. 専門職連携教育研究センター規程

センターの規定は、平成 26 年 10 月に千葉大学理事会で決定した。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、専門職連携教育及び連携実践を発展・進化させるための基盤体制を組織的に位置付け、我が国及びアジア圏の専門職連携教育実践の研究、教育の推進拠点として機能することを目的とする。

(組織)

第 3 条 センターに、次の研究部を置く。

- 一 教育実践研究部
- 二 その他、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）が必要と認めた研究部

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教
- 三 その他の職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、看護学研究科長が指名する。

- 2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 センター長は、センターの業務を総括する。

(運営委員会)

第 6 条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。

第 7 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関する事項
- 二 その他運営委員会が必要と認めた事項

第 8 条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長
- 三 その他センター長が必要と認めた者

第 9 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

第 10 条 運営委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第 1 1 条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第 1 2 条 センターにおいて外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 1 3 条 センターの事務は、看護学部事務部において処理する。

(雑則)

第 1 4 条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、看護学研究科教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 2 7 年 1 月 1 日から施行する。

2 最初に指名されるセンター長の任期は、第 5 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 2 7 年 3 月 3 1 日までとする。

Ⅲ. センターの取り組みと成果（平成 28 年度）

センターの理念・ミッション・ビジョンに基づき 5 年間の長期目標と 3 年間の中期目標を設定し、さらに短期目標として平成 28 年度の目標を設定した。（資料 1）

センターの目標は、「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」の 4 本柱に沿って、掲げている。4 つの柱ごとに長期目標・中期目標を見出しとして、平成 28 年度の事業の概要と成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の Step1・2・3・4 は、3 学部で運営責任学部を分担し 3 学部の教員とセンター教員が協力して運営を行っている。Step1 は看護学部、Step2 は薬学部、Step3 は毎年持ち回りで平成 28 年度は薬学部、Step4 は医学部である。以下、平成 28 年度の短期目標ごとにその実績を述べる。Step1・2・3・4 の科目内容及び実績の詳細は別冊として「学習のまとめ」に記載する。また学生数等の実績については（資料 3）に掲載した。

（1）亥鼻 IPE の改定、安定的実施

①ファシリテーターの導入

亥鼻 IPE では、従来から Step 1 の振り返りに学内の教員によるファシリテーターを配置していた。平成 26/27 年度の Step3 で学外の保健医療福祉職のファシリテーター導入を試み、平成 27 年度には Step2 と 3 の初回にファシリテーターを導入し、ファシリテーターの役割の明確化と共に研修会を開催している。

平成 28 年度は、各 Step の運営会の検討により、従来からの Step1 での実習の振り返りグループワーク、Step3 の 2 日目に実施する事例を用いた対立の解決を目指すグループワークに、ファシリテーターを導入した。

【Step1】平成 28 年 6 月 29 日（水）

学内教員 21 名（附属病院医師 7 名、看護学部 8 名、薬学部 6 名） 役割：実習のふりかえりグループワークの促進

【Step3】平成 28 年 12 月 27 日（火）22 名

学内教員 21 名（医学部 1 名、看護学部 9 名、薬学部 6 名、附属病院看護部 3 名、IPERC 教員 2 名）、学外教員 1 名 役割：事例を用いた対立の解決を目指すグループワークの促進

②ターム制の検討

千葉大学は平成 28 年度から全学でターム制（2 か月を 1 タームとして年間 6 ターム）を導入することとなった。平成 28 年度 3 学部時間割に Step1～4 を優先的に確保し、現在の運営方法を平成 28 年度版に移行することができた。平成 29 年度の授業日程については、各学部の教務委員会または教育委員会との連携をはかりすでに決定している。

③テレビ会議システムの活用検討

平成 26 年度に配置したテレビ会議室システムは、当センターと、看護学部の講義室 2 か所、医学部の講義室 2 か所、薬学部のセミナー室を結んでいる。平成 28 年度は、Step1 と Step 3 で、

テレビ会議システムを用いて講義配信を行った。

【Step1】

平成 28 年 7 月 13 日（授業最終日）、IPERC と発表会会場の 4 教室（医学部第 2 講義室、看護学部第 1 講義室、第 2 講義室、講義・実習室）繋ぎ、センター長からの総括コメントを中継した。

【Step3】

平成 28 年 12 月 27 日、オリエンテーションと講義を IPERC から 4 つの教室（医学部第一講義室、同第二講義室、看護学部第 2 講義室、同講義・実習室）に配信した。医学部の 2 つの講義室は、前夜のネットワークトラブルの復旧が間に合わず当日の配信ができなかった。このため、急遽教室担当教員が講義部分を担当した。

TV 会議システムの入っていない 3 会場（薬学 12 講義室、13 講義室、看護学部 112 講義室）には、Go to meeting を用いて配信を行った。

④アンケート等をもとにした次年度の科目の精錬

各 Step の授業評価アンケート、教員アンケート、FT からのアンケート結果を総合的に検討し、次年度のプログラム変更について検討を行った。

【Step1】

平成 28 年 8 月 2 日（火）、10 月 21 日（金）、11 月 7 日（月）検討会議開催。来年度は、授業日程を全 7 回に整理する。平成 28 年学部独自授業についても再検討し、1 単位 15 回の授業回数に準じて授業回数の整理を行う。また、工学部からの要請により工学部 3 年生 50 名の参加を決定した。これにより、今後医療職以外の専門職との連携教育についても視野を広げ取り組んでいくことになる。

【Step2】

平成 28 年 8 月 8 日（月）検討会議開催。来年度は発表会準備の授業日数を元に戻し、全 7 回とする。

【Step3】

平成 29 年 2 月 2 日（木）検討会議開催。来年度は対立の解決のグループワークに用いた事例の改善について検討を行う。看護学部は 2017 年度から新カリキュラム導入しこれを機に、看護学部は Step3 の対象を 2 年次に移す（2018 年度）。それを念頭に内容の改変を検討していく必要がある。

【Step4】

来年度は模擬患者事例の設定の改善を検討する。Step3 と同様に看護学部は Step4 の対象を 3 年次に移す（2019 年度）。それを念頭に内容の改変を検討していく必要がある。

(2) クリニカル IPE 試行事業

将来に向けて臨床の場で実践的な IPE 科目を開発するために、平成 27 年度に引き続き、クリニカル IPE の試行を大学病院で実施した。平成 28 年 7 月に附属病院の 10 診療科にて各 3 日間、クリニカル（診療参加型）IPE を試行した。医学部 5 年生のクリニカル・クラークシップの実習に合わせ、希望者を募ったところ、12 グループ 45 名（医学部 5 年生 15 名、薬学部 5 年生 17 名、看護学部 4 年生 13 名）の参加があった。また、各診療科・病棟において、医師 14 名、薬剤師 19 名、看護師 22 名にご指導をいただいた。来年度も試行事業として実施する予定である。（資料 4：別冊 クリニカル IPE 試行事業報告書）

2) 新たな IPE プログラムの開発

(1) 海外交流の検討

①学生の短期留学先の探索

亥鼻 IPE は英国のレスター大学をモデルとして発展してきた経緯がある。

平成 27 年 3 月 11 日（金）に開催した国際セミナーで基調講演のため来日したレスター大学のアンダーソン氏に学生短期留学および単位互換制度の意向を伝えたところ、今後検討していくこととなった。平成 28 年 9 月に酒井センター長および兼務教員の朝比奈准教授が訪英して、アンダーソン氏と面談した。交換留学に関しておおむね賛同が得られ、今後プログラムの目的・内容・手段等について協議していくこととなった。帰国後、担当教員間での協議を行い、3 学部の学生を同時期に派遣することは実習や講義の日程から難しいため、学部ごとにバラバラに派遣し、派遣前・後で集まりその経験を共有するという方法も模索することになった。また対象の学年、プログラムの目的を再検討する必要があることを申し合わせた。国内ですでにレスター大学と交換留学を実施している新潟大学の担当教員との情報共有を行い、窓口となるレスター大学医学部学部長ニック・ロンドン氏と 2 月下旬に面談する機会を持ち、今後の方向性を検討した。レスター大学は現在カリキュラムの改革が進行中であり、また、看護学の大学院設置に向けても準備を進めている。IPE に関しても流動的であり、今後 IPE に関するレスター大学との相互のサイトビジットを計画し、交換留学の実現可能性を探る必要がある。

②アジア圏大学への IPE 普及の協力について

千葉大学では、全学企画でマヒドン大学への短期留学制度がシステム化している。平成 27 年 4 月、全学のツイン型学生派遣プログラム「ツインクル」担当者とマヒドン大学への学生派遣について協議した。その結果、ツインクルの参加要件を満たす場合、ツインクルプログラムからの経済補助を受けて学生の派遣が可能であること。および派遣先のマヒドン大学において本学の IPE プログラムを紹介することや、現地の病院訪問等が可能であることを確認している。

今年度、学生への情報提供は実施できなかった。

11 月 1 日（火）にインドネシアのガジャマダ大学の教員および大学院生が看護学研究科に来訪した際、「ガジャマダ大学での IPE 導入に向けたワールドカフェ」を企画実施した。20 名の参加があり、活発なディスカッションができた。

また、インドネシア大学でも IPE の導入を検討しており、国際協力機構（JICA）の円借款プロジェクトによる、医学部棟並びに附属病院の建設及び立ち上げのコンサルタントを請け負っている会社から、IPERC にコンサルティングの依頼があり、平成 29 年 1 月 13 日にセンター長が応じた。

これら、インドネシアの 2 つの大学との交換留学についても、今後視野に入れていく。

（２）千葉県内の大学間連携

①千葉県内薬学系大学のコンソーシアム 千葉県内の薬学系大学でコンソーシアムを組んでおり、本学薬学部も参加している。このコンソーシアム協定校のうち、城西国際大学薬学部の学生が亥鼻 IPE に参加している。平成 28 年度は、5 年生 2 名が Step3 に参加した。これらの学生は、コンソーシアムで作成した IPE の e-learning で事前学習を行っている。

②千葉県内の他大学との連携 今後の千葉県内大学間連携を見据えて、千葉県立保健医療大学から学生および教員の参加依頼があった。Step3 に歯科衛生学科 4 年生 3 名の参加があった。なお、同学科の教員 1 名がファシリテーターとして参加した。Step3 で本学学生からは 3 学部と異なる職種の理解が促進されたと評価があった。

（３）大学院 IPE プログラム

①災害看護学の IPE

本学看護学研究科には、災害看護グローバルリーダー養成プログラムがある。これは高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学と共同した 5 年一貫の博士課程「共同災害看護学専攻」である。この専攻で開講している「専門職連携実践論」及び「災害時専門職連携演習（災害 IP 演習）」の 2 科目について、酒井センター長が科目責任者として担当し、当センター教員が協力している。

特に 2 月 27・28 日・3 月 1 日に開講された「災害時専門職連携演習」のシミュレーションを用いた集中演習には、演習案作成の段階から井出特任准教授、臼井特任助教、馬場特命助手が、演習当日にはさらに、藤沼康樹特任講師が協力参加し、実施した。

（４）他大学との連携

当センターの開設以来、他大学及び大学院から IPE への協力要請が多数寄せられている。本年度は、保健医療福祉系の大学が新たに IPE に取り組むための FD への講師派遣や、他大学の学部学生への専門職連携に関する講義依頼等の要請がありこれに対応した。また大学以外でも看護専門学校における連携教育への協力依頼もあり対応した。これらの取り組みは、当センターの教育事業であるとともに実践（社会貢献）事業でもある。（資料 5）

3) FD の充実

（１）亥鼻 IPE ファシリテーター養成プログラムの実施

亥鼻 IPE の Step1～4 には多くの教職員が関わっている。また実習施設として多くの外部機関の専門職の方々にご指導をいただいている。そのため各 Step で、担当教員への FD および実習担当者への説明会を実施した。以下、次のように略語を使用する。

FD...教員対象の研修

SD...附属病院職員、外部実習受け入れ機関の指導担当専門職対象の研修

【Step1】 FD/SD 6 月 15 日（水）

21 名出席（附属病院医師 7 名、看護学部 8 名、薬学部 4 名、IPERC2 名） ふれあい体験実習のふりかえりグループワークでのファシリテーションをご担当いただくため、ファシリテーションの目的および実施上の留意点について重点を置いて実施した。

【Step2】FD/SD 4月14日（木）

42名出席（附属病院医師8名、看護学部1名、薬学部6名、学外実習機関担当者25名、IPERC2名）フィールド実習（医療保健福祉機関の専門職連携の実際を見学する）を受け入れる現地指導担当者を集めた説明会を実施した。実習の目的、学ばせたい内容、学生の準備状況、留意事項等を説明した。

【Step3】FD 12月12日（月）・13日（火）で2回実施

延べ29名出席（附属病院医師5名、看護学部8名、薬学部6名、附属病院看護師3名、学外教員1名、IPERC6名）対立の解決のグループワークへのファシリテーションをご担当いただくため、ファシリテーションのポイントおよび留意事項について重点を置いて実施した。

【Step4】FD/SD 9月5日（月）

35名出席（医学部附属病院医師6名、同看護師2名、同理学療法士作業療法士5名、言語療法士2名、栄養士3名、ソーシャルワーカー4名、看護学部6名、薬学部4名、IPERC3名）学生が、模擬患者への退院計画を立てる際に各専門職からのコンサルテーションを受けるため、コンサルテーションの基本的知識・学生の準備状況等に重点を置いて実施した。

（2）亥鼻 IPE の安定的な教育指導者確保

平成28年度は、Step1～4において、3学部の学生年間約1000名の授業運営を、実数45名、延べ数86名の教員が担当した。3学部の教員以外にも附属病院の専門職（実数71名、延べ数72名）や外部機関の協力者（実数延べ数共に18名）が関わっている。学内教員、大学病院スタッフの安定的な確保のための亥鼻 IPE への参加ルールに基づき教員の協力を得ている。看護学部では、全教員が亥鼻 IPE の教育体験ができるように、教務委員会が教員配置を行っている。薬学部でも全助教が担当するよう教員配置を行っている。医学部も附属病院医師を中心に組織的な教員配置を行っている。実際の教員の参加人数および役割は、別資料に示す。（資料3）

（3）FDに関する海外の状況についての情報収集

平成28年8月、井出特任准教授および馬場特命助手の2名を、米国ミネアポリスで開催された「Learning Together at the Nexus: National Center summit on the Future of IPE」参加のために派遣した。FD および現場のプリセプターの指導能力向上の研修方法のワークショップに参加した。米国における IPE に携わる Faculty および現場の指導者である Preceptor のトレーニング研修について学びの機会を得た。

＊National Center：2012年に、米国のヘルスアンドヒューマンサービス部門と保健福祉サービス管理部門の協力協定によって設立された。ジョサイア・メイシー・ジュニア財団、ロバート・ウッド・ジョンソン財団、ゴードン・アンド・ベティ・ムーア財団とミネソタ大学によって部分的に資金を供給されている。

インタープロフェッショナル教育と共同の実践（「新しい IPE」）によって、国民の健康を向上させ、介護やケアの全体的なコストを削減させることを目指す。専門職種間の教育と共同の実践の使用に国を導くために必要なリソースを提供している。

【ミッション】：専門職種間の実践と教育の分野を促進し、より良いケア、健康な社会に付加価値を加えること、それにつながる証拠、データを提供すること。

【ビジョン】：高機能のチームは経験、成果およびヘルスケアのコストを改善することができるという信念を持つ。医療分野のステークホルダーたちの仕事や一緒に学ぶことを前進させる。

① プレカンファのワークショップに参加（概要）

ナショナルセンターが提供しているファカルティデベロップメント研修の“Taste of T3 Faculty Development Program : Train-the-Trainer”の中のいくつかのワークを実際に行ってみるという内容であった。同研修は3日半のWSプログラムで構成され、ワシントン大学、ミズーリ大学、バージニア大学でホストされている。

IPEはまだ新しい学習であり、ファシリテーションにはスキルが必要であるが、ファシリテーターのトレーニングはまだ不十分であるため、本プログラムを開発したとのことであった。フィードバックの重要性が力説され、同時にフィードバックをし続ける文化を創ることが重要であるとの示唆を得た。

② Work Shop 5 : Making Interprofessional Practice “Real”: Developing Student Experiences in Rural Setting to Align Practice and Education に参加

（概要）

医療専門職の学生が卒業後、実践現場で専門職連携チームのメンバーとして働くための準備への需要は増加している。これらの要求に応じて、メイシー財団からの資金提供を通して、カンザス大学 Medical センター（KUMC）は、National Center と協力して、「リアルな」状況下でプリセプター（現地指導者）を養成するための、専門職連携教育および 共同の経験を提供するツールキットを開発した。これは、2011 年に KUMC の Interprofessional Teaching Clinic (IPTC) で開始された。このキットは、IPECP (Interprofessional education and collaborative practice) を一列に並べる（教育と実践をつなげる）さらなるモデルを開発するためのプロトタイプとして用いた。学生が、変化の激しいノンアカデミックな状況下で、IPECP を経験する必要性を検証するために、カンザス地方の 5 つのサイトで、パイロット的にローテーション方式で 2015-2016 の間に実施された。その実践報告および実際に用いたキットの教材を用いたワークの一部を体験した。

（4）教職員および現場指導者の連携能力向上のためのトレーニング研修

これまでの FD については、各 STEP の学習に参画する教員や実習を引き受けていただく現地指導者の方を対象に、レクチャーを中心に、「亥鼻 IPE とは」「各 STEP のねらい」「学習内容」「教員（ファシリテーター）・現地指導者の役割」をお伝えし、学生の学習支援を滞りなく進めていただくことを目的として実施してきた。

上記（3）に記述したように、海外の IPE 先進地では、FD (Faculty development) ・PD (Preceptor development) のツール開発、研修の系統的プログラム化などが進んでおり、前提として、IPE における学習のファシリテーションや実習指導には、一定のスキルや能力が必要であり、それを身につけるためのトレーニングの必要性が指摘されている。

また、平成 27 年度に IPERC では、「亥鼻 IPE ファシリテーターに必要なコンピテンシーおよび研修方法の探索的研究」を実施し研究報告書にまとめたところである。総括的には、「学生同士の関係性の観察」「沈黙が続くときの介入」「学生同士の対話を促進するスキル」などが重要で、身につけるには重点的な練習が必要であり、特定の状況を想定したロールプレイの演習や、ファシリテーションスキルの習得度別プログラムの開発などが課題との結論がでている。

今後、FD ・PD の研修プログラム開発、特に IPE ・IPW のスキルや知識の獲得、コンピテンシーの向上に向けたトレーニング研修プログラムの開発を継続して行うとともに、こうしたスキルや知識の獲得、コンピテンシーの向上への価値意識が高まるような戦略が必要と考える。

すなわち、「IPE の学習を効果的に促進できる能力を持つ教員」や「実践の場で IPW を促進できる能力を持った人材」や「実践の場で IPE を効果的に指導できる指導者」が存在することが、その大学・病院・保健医療福祉サービス提供機関の「売り」になり、受験者や就職希望者が増える、補助金などのインセンティブが働く方向に持っていくことも必要かと考える。そうした観点から、今後下記

の取り組みへの実施可能性を探りたい。

① 千葉大学医学部附属病院 IPW Champion Award（仮称）の授与

亥鼻 IPE への協力履歴、職場での IPW 推進への貢献、IPE に関する FD・PD への参加歴や取得単位などを基に、院長表彰等を行う。

② FD・PD の研修プログラム開発と定期的実施。単位化。

ワークショップ方式によるスキルトレーニングを中心としたプログラムを計画する。受講者が希望により亥鼻 IPE への学習支援に参画できるようにシステム化

③ 生涯学習プログラム化による IPE・IPW 推進士（仮称）認定制度の創設

IPE への学習支援への協力履歴、研修参加などを単位化し、一定単位を取得した者を推進士として認定する。

今年度は、看護学研究科の学術推進企画室が、看護学研究科教員の英語教授能力の向上を目指した FD を企画しており、IPERC と共催することにより、亥鼻地区の Faculty 全体を対象にした企画に発展させ、Inohana FD プロジェクトを平成 29 年 1 月に発足させた。本プロジェクトは、下記の問題解決に役立つ FD 企画を提供していく予定にしている。

- ・英語を使った授業や教育プログラム
- ・ICT やスマートフォン・タブレットを活用した教育プログラム
- ・教育を行う上での適切な自己評価
- ・多分野・異分野との効果的なコラボレーションの作り方
- ・その他、自分自身や所属部局の教育に関する課題や困難解決

1 月以降、3 回の FD 研修を実施した。今後も 3 月 24 日（金）、4 月 26 日（水）、5 月 25 日（木）に予定している。概要は以下のとおりである。

<第 1 回>「英語を用いた教授・指導方法」

【背景】国際プログラムや留学生の受け入れなどで英語での授業やゼミ、研究指導を提供する機会が増えている。

【目的】英語ネイティブでない教員が、英語を用いて効果的に授業や指導を展開するために活用できるスキルの習得と情報の共有

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の職員

【日時】平成 29 年 1 月 25 日（水）17:00-18:00

【場所】千葉大学大学院看護学研究科 看護・医薬系総合教育研究棟(南棟)第 1 講義室

【内容】・教育・学習支援における困難の共有

- ・成人学習の様々な方法
- ・Alternative Teaching methods
- ・ケーススタディ 医療専門職教育の国際化

【FD アドバイザー】千葉大学医学部医学教育研究室 Dr. Daniel Salcedo

【司会】飯田貴映子 千葉大学大学院看護学研究科 学術企画推進室 講師

【講義】酒井 郁子 千葉大学大学院看護学研究科ケア施設看護システム管理学 教授
専門職連携教育研究センター センター長

【参加者数】合計 25 名（医学研究院 6 名 看護学研究科 15 名 薬学研究院 1 名 IPERC 3 名）

＜第2回＞連携能力向上研修（異文化感受性研修）

【テーマ】調和ある多様性の創造を目指して～あなたとあなたの組織の異文化感受性

（Intercultural Capacity）を知る～

【背景】グローバル化への揺り戻しともいえる現象が世界各地で起こっている。医療の世界、学問の世界でも、細分化（専門分化）と多専門分野融合（連携共同）、健康問題・社会問題の複雑化など絶え間ない変容が起こっている。「多様性の調和」は個々の仕事のパフォーマンスだけでなく、組織文化にも影響を与える。国籍・人種・思想・性・世代・職種・組織・価値・個性等様々な多様性を包含した社会・組織・地域の中で働く医療人・大学人が、いかに異文化を受容し適応していけるかは、これからの時代に欠かせない能力（コンピテンシー）である。

【目的】・学習者が自ら（あるいは自らが属する組織）の異文化感受性を理解する。

・日々の教育研究活動・実践活動の中で、自己・周囲の人々・組織の多様性を受容し、その力を最大限に発揮させられるような適応行動が取れる。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員・学生、千葉大学医学部附属病院の職員

【日時】平成29年1月28日（土） 9:00～15:30

【場所】千葉大学大学院看護学研究科 看護・医薬系総合教育研究棟(南棟)第1講義室

【講師】Akiko Maeker 氏 Founder, Principal Consultant, Interculturalist. LLC

【内容】・異文化感受性とは

- ・IDI（Intercultural Development Inventory）を用いた自己および組織の意識レベル・行動レベルの異文化感受性の分析
- ・意識レベルと行動レベルのギャップを埋めるには

【参加者数】合計20名（医学研究院、看護学研究科、外部）

＜第3回＞ICTツールによるアクティブ・ラーニングの推進

【背景】ICT（インフォメーション&コミュニケーション・テクノロジー）を活用する教育スタイルが、ますます加速している。英語を用いたグローバルな教育のためのツールとしても期待されている。

【目的】ICTツールを用いた授業実例について情報共有し、アクティブ・ラーニングやFlipped Classroom（反転授業）の感覚をつかむ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の職員

【日時】平成29年2月24日（金）17:30～18:30

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟184号室

【内容】・アクティブ・ラーニングとは

- ・なぜ、アクティブ・ラーニングなのか
- ・成人学習理論
- ・アクティブ・ラーニングの効果
- ・反転授業とは

【FDアドバイザー】千葉大学医学部医学教育研究室 Dr. Daniel Salcedo

【講師】鋪野紀好 千葉大学医学部附属病院 総合診療科 特任助教

【参加者数】合計19名（医学研究院5名 看護学研究科12名 IPERC2名）

<第4回>Case-Based Learning (仮)

【日 時】平成29年3月24日(金) 17:30~18:30

【場 所】千葉大学亥鼻キャンパス内

【講 師】酒井郁子 千葉大学大学院看護学研究科ケア施設看護システム管理学 教授
専門職連携教育研究センター センター長

* 来年度の予定

<第5回>Problem-Based Learning (仮)

【日 時】平成29年4月26日(水) 17:30-18:30

【講 師】千葉大学大学院医学研究院 医学教育研究室 講師 伊藤彰一

<第6回>Backward Design (仮)

【日 時】平成29年5月25日(木) 17:30-18:30

【講 師】Daniel Salcedo 千葉大学医学部附属病院 総合医療教育研修センター特任助教

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

(1) IPE の FT やコンサルテーション、広報活動

①ホームページの充実

平成27年4月に専門職連携教育研究センターFacebook ページを開設した。平成27年5月に専用ホームページを開設し、コンテンツを「亥鼻IPE」「教育・研修活動」「研究」「勉強会」に分類した。また、研究データベースの構築、海外への発信としており、平成28年3月には英語版ホームページの作成を行った。2016年5月亥鼻IPEの紹介動画をHPに掲載した。YouTubeとの紐付けも行い、広く情報発信している。ジャーナルクラブ等の案内、実施報告、活動実績は、タイムリーな更新を遂行している。

HPを見ての、取材の申し込み・亥鼻IPEの見学申し込み・ジャーナルクラブ参加への申し込みも数件あった。

今後さらに、Facebook ページ、ホームページでの情報発信および当センターとしてのメディア活用戦略を立て、発信する情報の選定、効果測定、担当者の明確化等を進める必要がある。

②問い合わせに応じた情報発信・社会貢献

ホームページの問い合わせへのアクセスや電話、メール等により当センターへの情報発信依頼があり、情報発信・社会貢献を行った。詳細は資料5に示した。

2) IPW の促進

(1) 大学病院のIPW改善

「大学病院や総合病院、地域医療等の職員への研修プログラムを作成し実施する」という短期目標については、当センターの研究事業である【プロジェクト研究Ⅱ】を実施しており、研究事業と連動して進めている。

さらに、試行事業2年目となる診療参加型IPEでは、附属病院の医師・看護師・薬剤師合計55名に指導者として協力を得た。その指導過程において、学生指導のための各職種間のコミュニケーション機会が増加したり、学生カンファレンスに多職種が同席して意見交換したりといった現象が見られ、実習指導自体が現場のIPW促進のプロセスとなっていた。

また「教職員および現場指導者の連携能力向上のためのトレーニング研修」を今年度から取

り組み始めた。大学病院からも医師・看護師の参加が得られた。今後さらに同様の研修の継続的实施、トレーニング研修のプログラム開発に取り組み、大学病院の IPW 改善に貢献できるよう努力していく。

（２）千葉の地域包括ケアシステム構築

①千葉市での地域活動

昨年度、大塚特任教授らが千葉大学知（地）の創生事業、地域志向教育研究経費を獲得し、地域貢献活動を行った。この活動では、千葉市地域包括ケア推進課と連携し、東千葉地域の教育研究フィールド開拓を行い、平成 27 年 9 月にスタート講座を開催して「地域の和・輪・環の会」の立ち上げに結びついた。平成 28 年度は、8つのプロジェクト（①元気カフェ②地域団体交流③集会所のフル活用④気軽に挨拶できる街づくり⑤地域情報誌⑥若い世代との交流⑦在宅医療・介護を学ぶ⑧困った時の相談窓口）がスタートし、地域住民の自主的な健康づくり活動がスタートしている。これらの活動に IPERC 今後とも協力していく予定である。

また、本事業の成果をもとに、平成 28 年度普遍科目地域コア「チームで取組む地域活動入門」が普遍科目看護学部担当科目として開講された。看護学研究科の教員と共に IPERC 教員も一部を担当していく予定である。

昨年度、この活動の一環として、「A地域における住民主体の地域づくりを推進した要因」をテーマとする研究に取り組み、成果の一部を平成 28 年 7 月に韓国で開催された「第 3 回韓日地域看護学会合同学術集会」で発表した。（資料 7）

②千葉県下の保健医療福祉職への研修への協力

千葉県健康福祉部や県下保健所からの依頼により、地域の保健医療福祉職対象の多職連携協働研修の講師として、酒井センター長および IPERC 特任教員が協力した。

- ・習志野保健所（習志野健康福祉センター）：平成 28 年度第 1 回管内保健師業務連絡会における「職場での多職種とのコミュニケーションの原則について」
- ・千葉県健康福祉部：県内全域の専門職対象の多職種協働研修（目的：認知症の人と家族の支援に携わる専門職の円滑な連携と多職種協働を促進する）

3）政策提言

政策提言に向け、酒井センター長が分担研究者として参画している厚生労働省科学研究を進めた。

3. 研究

1）研究プロジェクトの組織化、研究の推進

（１）亥鼻 IPE 卒業生追跡調査の継続と成果発表

亥鼻 IPE では、卒業生の追跡調査を継続して実施し、データを蓄積している。平成 29 年 3 月にも医学部・薬学部 6 年生と看護学部 4 年を対象に卒業時調査を行う予定である。

（２）亥鼻 IPE 教育評価研究の継続

①亥鼻 IPE（Step1～4）の教育評価研究

亥鼻 IPE では学生のレポートや教育評価をデータとして蓄積している。平成 28 年 3 月に看護学研究科の研究倫理審査委員会に「医・薬・看護協働の IPE プログラム Step1・2・3・4 の教育評価に関する研究」について審査申請を行い承認された。

現在、「積み上げ型 IPE の初学年の学生における学習目標の意識化(conceptualization)の程度に関する研究」、「千葉大学 IPE の STEP 1 における学生のインタープロフェッショナルの社会化の実態」の 2 テーマで、学生のレポートを分析している。平成 29 年 8 月開催の AMEE (The Association for Medical Education in Europe) に発表のエントリーをしている。

② 診療参加型 IPE (クリニカル IPE) 試行事業の評価研究

昨年度から開始した診療参加型 IPE (クリニカル IPE) 試行事業について、「タイトル: Clinical IPE: Interprofessional education in a point-of-care setting」としてまとめ、平成 28 年 6 月にスペインで開催された An International Association for Medical Education (AMEE)において、朝比奈准教授筆頭により研究発表した。

また、やはり昨年度から、医学部兼務教員である朝比奈真由美准教授を中心に、クリニカル IPE に伴う評価研究を行っている。看護学研究科倫理審査委員会で「クリニカル・クラークシップにおける IPE プログラム (クリニカル IPE プログラム) のパイロット・スタディの検討」というテーマで承認をうけ、研究目標Ⅰ「学習者の実習到達目標および実習内容、実習環境に関する課題抽出と検討」として受講学生へのインタビュー、研究目標Ⅱ「実習指導者の実習到達目標および実習内容、実習環境に関する課題抽出と検討」として指導した教員および現地指導者へのインタビューを実施した。得られたインタビューデータについては現在分析中である。

(3) IPE テキストの執筆・出版

亥鼻 IPE の教育研究の成果を基に、IPE のテキスト化を計画している。ミネルバ書房から IPE テキスト出版が可能となった。現在は出版社と構成、出版時期などについて検討を行っている。

(4) IPE プロジェクト研究の企画・運営

当センターの研究事業としてプロジェクト研究を開始した。平成 28 年 5 月の運営委員会で、「平成 28 年度千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センタープロジェクト研究共同研究員募集要項」(資料 6) の決定をうけ、IPE/IPW を研究テーマとして取り組もうとする大学内外の人材をセンターの研究員として公募した。今年度は 6 月に募集をかけ、8 月に研究員を決定し、9 月から平成 29 年 3 月までの 7 か月の研究期間であった。

① プロジェクト研究Ⅰ (IPE)

専門職連携教育のマネジメントに関する研究で、国内外における医療系基礎教育における IPE の現状と課題を明らかにし、IPE マネジメントフレームワークを開発することを目的としている。本年度は、学外からの研究員の応募はなかった。IPERC 特任教員を中心に、海外の IPE の現状・課題を著した文献を輪読する勉強会を定期的に継続し、海外の IPE におけるマネジメントの現状について情報収集している。

現在、輪読している文献は以下のとおりである。

- ・ Andre Vyt, Majda Pahor, Tiina Tervaskanto-Maentausta(eds.) . *Interprofessional education in Europe: Policy and practice*. Antwerpen/Apeldoorn. Garant. 2015
- ・ Sioban Nelson, Maria Tassone, Brian D. Hodges. *Creating the Health Care Team of the Future –The Toronto Model for Interprofessional Education and Practice*. ILR Press. 2014
- ・ Jill E. Thistlethwaite. *Values-Based Interprofessional Collaborative Practice - Working Together in Health Care*. Cambridge University Press. 2012

② プロジェクト研究Ⅱ

特定機能病院における専門職連携実践の構造とアウトカム研究で、特定機能病院のせん妄ケアシス

テムに関してフィージビリティスタディを実施し、介入内容の妥当性を検証することを目的としている。附属病院より6名（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士）、看護学研究科教員1名の応募があり、IPERC教員を含めて研究チームを形成した。現在、「せん妄に対する多職種チームアプローチの実装－外科病棟におけるせん妄ケアプログラムの実施および評価－」をテーマに倫理審査の承認を得ており、平成29年3月までに附属病院にてせん妄のスクリーニングツールの日本語版開発のための調査を実施する予定である。

③ プロジェクト研究Ⅲ

災害時専門職連携実践能力の獲得を目指した教育プログラム開発研究である。災害急性期における専門職連携実践能力を明確にし、教育プログラムを開発することが目的である。学外から1名の応募があり、IPERC教員と共に、現在は定期的に勉強会を開催し、文献検討からリサーチクエスションの絞込みを行っている。

（5）研究成果発表と論文文化

平成28年4月から平成29年1月にIPERCのセンター長、兼務教員、特任教員による業績は、原著2件、学会発表37件、単行書6件、総説その他7件であった。その研究成果発表は、平成28年度研究業績として整理した。（資料7）

（主なもの）

- ・酒井センター長筆頭にて、Journal of Interprofessional Care に Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29)を公表した（2016.12）
- ・An International Association for Medical Education (AMEE)において、朝比奈准教授筆頭により「Clinical IPE : Interprofessional education in a point-of-care setting」の発表を行った。

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

（1）外部資金の恒常的な獲得 本年度、新たに加わった外部資金はなかった。

（2）リソースパーソンの組織化

亥鼻 IPE のリソースパーソンは、①Step4 の附属病院のコンサルタント、②ループリックによる学生のパフォーマンス評価を行う医学部及び附属病院の人材、③学生グループのファシリテーターとなる人材である。①は医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、リハ職等延べ40名が得られた。②は、Step1～4 あわせて20名から協力が得られた。③は、亥鼻 IPE に関心をもつ学内学外の教員や実践現場の専門職とし、必要とする Step の FD 受講を義務付けた。Step1 で18名、Step3 で21名の協力を得ることができた。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

PDCA サイクルをもとに当センターの運営を行い、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正するという中期目標のもとに、①運営委員会の開催、②教育実践研究部会の開催、③亥鼻 IPE Step1～4 の各学部担当教員と連携して亥鼻 IPE を運営した。また、教員自身の学習研究のためにスタディグループによる学習会とジャーナルクラブの開催を継続してきた。特にジャーナルクラブは学内外に門戸を広げ、毎回学内外からの参加者があった。

平成 28 年度の実績は以下のようである。

【①IPERC 運営委員会】

2016 年 5 月 19 日、11 月 1 日、2017 年 2 月 7 日

【②教育実践研究部会】

2016 年 8 月 2 日、10 月 21 日、11 月 7 日、12 月 16 日

【③Step 運営会議】

Step1…全 4 回（2016 年 4 月 27 日、5 月 12 日、6 月 16 日、8 月 2 日）

Step2…全 5 回（2016 年 3 月 18 日、3 月 31 日、4 月 7 日、5 月 19 日、8 月 8 日）

Step3…全 4 回（2016 年 9 月 9 日、10 月 4 日、11 月 29 日、2 月 2 日）

Step4…全 2 回（2015 年 7 月 7 日、9 月 2 日）

【スタディグループ】原則毎週火曜日 12:00～13:00 全 23 回

【ジャーナルクラブ】第 2・4 火曜日 17:00～18:00 全 18 回

3) IPERC の将来構想

当センターの将来構想については、外部評価委員会を設置し、年に一度外部評価を受け、検討していく。平成 28 年度は、①各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行いその成果を明確にする、②センター事業報告書を作成する、を短期目標とした。平成 29 年 3 月 21 日に外部評価委員会を開催し、事業および業績報告を行い、最終的に事業報告書を作成する予定である。

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 平成 28 年度外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、平成28年度外部評価委員会を開催した。

日 時：平成 29 年 3 月 21 日（火）15 時から 17 時

場 所：千葉大学看護学部 大会議室（管理棟 2 階）

出席者：外部評価委員 5 名

川島 啓二	九州大学基幹教育院 教授
渡辺 秀臣	群馬大学大学院保健学研究科 教授
田邊 政裕	千葉県立保健福祉医療大学 学長
富田 薫	千葉市保健福祉局包括ケア推進課 課長
永田由美子	千葉大学医学部 SP（模擬患者）会

センター運営委員会委員 12 名

酒井 郁子	専門職連携教育研究センターセンター長
坂上 明子	大学院看護学研究科准教授
朝比奈真由美	医学部附属病院准教授
伊藤 彰一	大学院医学研究院講師
関根 祐子	大学院薬学研究院教授
大久保正人	大学院薬学研究院助教
眞嶋 朋子	大学院看護学研究科教授
黒河内仙奈	大学院看護学研究科助教
井出 成美	大学院看護学研究科特任准教授
高橋 在也	大学院看護学研究科特任講師
臼井いづみ	大学院看護学研究科特任助教
馬場由美子	大学院看護学研究科特命助手

欠席者：センター運営委員会委員 8 名

織田 成人	大学院医学研究院教授
森部久仁一	大学院薬学研究員教授
磯野 史郎	大学院医学研究院教授、医学部附属病院副病院長
石井伊都子	医学部附属病院薬剤部長
田澤 敦代	医学部附属病院看護部副看護部長
相馬 孝博	医学部附属病院教授・医療安全管理部長
池崎 澄江	大学院看護学研究科准教授
藤沼 康樹	大学院看護学研究科特任講師

内容・議事：酒井センター長から開会の辞があり、宮崎美砂子研究科長が欠席のため、眞嶋朋子千葉大学看護学部副看護学部長から挨拶があった。

外部評価委員会に関する内規第 5 条に基づき、外部評価委員長・および副委員長を互選にて選出した。委員長に田邊氏、副委員長を渡邊氏が選出され、委員長が議事進行を行った。まず、井出特任准教授から平成 28 年度事業実施状況と平成 29 年度事業計画について説明があり、質疑応答・意見交換を行った。最後に 5 名の外部評価委員が講評を述べた。

2. 外部評価委員による講評

5 名の外部評価委員には、平成 28 年度の実施項目について、「A：よくできた、B：ふつう、C：努力を要する」の評価基準で評価をいただいた。表は、評価項目ごとに、評価欄（A・B・C）に外部評価委員の人数を記入し、A を 3 点、B を 2 点、C を 1 点として、評価項目ごとの平均値を算出したものである。外部評価委員からの既述コメント（原文まま）を掲載する。

【教育に関するコメント】

- ①教育に関しては順調な成果が上がっていると言える。
- ②規模も受け入れ体制も充実されたと感じる。
- ③計画的にきめ細かく進めておられると思います。
- ④工学部学生の参加が予定されたこと、クリニカル IPE に 45 名の参加があったことは高い評価ができる。
- ⑤アンケートを集約し柔軟に対応されるのはかなり努力が要されと感じる。
- ⑥授業評価アンケートの活用は外部によく見えるようにしてほしい。
- ⑦アンケート結果を踏まえた PDCA サイクルが不明確であった。
- ⑧クリニカル IPE についても上記同様で課題をまず明確にすべきである。
- ⑨レスター大学との交流準備は順調である。
- ⑩FD 活動やトレーニング研修体制は充実している。
- ⑪InohanaFD プロジェクトの発足は大きい成果といえる。
- ⑫ファシリテーターの活用は計画的かつ効果的に運用されていると思う。
- ⑬IPE を担う教職員の能力像の抽出・言語化は重要であると同時に、そこからどのような活動枠組みを展開させることが問われると思う。
- ⑭FD の視点は重要で今後も重点的に強化すべき領域である。

【実践・社会貢献に関するコメント】

- ①おしなべて良い成果が得られていると思う。
- ②将来的な持続と発展に向けては実績をしっかりと広報することが重要であり、この観点から HP の充実は実に大切な活動といえる。こうしたことをよく理解していることがうかがえる。さらに英語バージョンのアップロードに期待したい。
- ③HP は現状でもわかりやすくよい。
- ④「地域の和・輪・環の会」の発展は高い評価ができる。
- ⑤IPW は診療科レベルでなく大学病院全体で取り組むテーマである。
- ⑥IPW は地域でこそ必要とされている。
- ⑦政策提言については活動が良く理解できなかった。

第2回 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会 評価結果 (評価者5名)					評価		
	長期目標 (～2019)	中期目標 (2015～2017)	実施内容 (2016)		A(3点)	B(2点)	平均点
					C(1点)		
教育	1) 亥鼻IPEの発展・進 化	(1) 亥鼻IPEの改定、安定的実施	① Step2・3に外部ファシリテーター導入		1	4	22
			② ターミ制を踏まえた2017年度以降の科目開始時期の検討		2	3	24
		(2) クリニカルIPEの実施	③ テレビ会議システムの活用機会の拡大		1	4	22
			④ アンケート等をもとに次年度の科目の精練		2	1	2
			クリニカルIPEの試行		3	1	24
			① レスター大学への短期留学・単位互換の準備			5	2
	2) 新たなIPEプログラ ムの開発	(1) 海外との交流	② マドバ大学でのIPE学生短期留学の探索		1	4	22
			① 千葉県内薬学系大学のコンソーシアム		1	4	22
	3) FPDの充実	(2) 千葉県内の大学間連携	② 千葉県内の他大学との連携		2	3	24
			災害看護学のIPE協力		1	4	22
実践・ 社会 貢献		(3) 大学院IPEプログラム	千葉県立保健医療大学の参加を踏まえさらに充実		1	4	22
			「亥鼻IPE」のFT養成プログラムの実施		4	1	28
	1) IPE研究拠点からの 発信	(1) 「亥鼻IPE」のFT養成プログラ ム	亥鼻IPEの安定的なFT確保のルールを守り実施		1	4	22
			① HPの充実		2	3	24
	2) IPWの促進	(2) 亥鼻IPEの安定的なFT確保の組織化	② 問い合わせに応じた情報発信		1	4	22
			大学病院のIPW改善(プロジェクト研究Ⅱ)		2	2	22
	3) 政策提言	(1) 千葉の地域包括ケアシステム構築	千葉県(千葉市)の地域連携の実践および専門職育成に協力		3	2	26
			関係団体との関係づくり			4	18
研究		(1) 制度化作等望書を作成、関係機関に提案	① 亥鼻IPE卒業生追跡調査の継続と成果発表			3	16
			② 亥鼻IPE教育評価研究の継続と成果発表			4	18
	IPE/IPWの理論化・体 系化、専門職連携学の 構築	研究プロジェクト・チームを複数設置し研究を企 画・遂行。研究チームの組織化	③ IPEテキストの執筆・出版		1	2	18
			④ プロジェクト研究事業継続				
			・プロジェクト研究Ⅰ：自発的IPE関係研究				
			・プロジェクト研究Ⅱ：附属病院の研究員によるせん妄チーム 研究		2	3	24
			・プロジェクト研究Ⅲ：災害時専門職連携実践能力の獲得を 目指した教育プログラム開発				
			⑤ 研究発表と論文文化		3	2	26
	1) 予算と人材確保	(1) 外部資金を恒常的に獲得	① 学長裁量経費の獲得			3	16
			② 科学研究費補助金の獲得			2	19
組織 運営		(2) リソース・パートナーの組織化	リソース・パートナーのリスト化と研修の実施		1	4	22
			① 運営委員会の開催				
	2) PDCAサイクルに基 づく組織運営	PDCAサイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計 画や各種運営マニュアルを修正	② 教育実践研究部会の開催				
			③ 亥鼻IPE Step 1～4の運営会の開催		2	3	24
	3) IPERCの将来構想	外部評価をあげる。	④ 外部評価委員会の開催				
			① 各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行い、その 成果を明確にする		2	3	24
			② センター事業報告書の作成				24

【研究に関するコメント】

- ①卒業時追跡調査が亥鼻 IPE のアウトカムを検証するうえで重要。
- ②卒業生調査にはぜひ期待したい。
- ③研究の倫理審査の承認など着実に研究体制が整備されている。
- ④テキスト出版が決定され、テーマも明確となり、図書発刊に準備が順調である。
- ⑤英文の論文報告は高く評価できる今後の発表、出版がとても楽しみです。
- ⑥プロジェクト研究は亥鼻 IPE の研究面をアピールするものなので引き続き重視されたい。

【組織運営に関するコメント】

- ①こうした取り組みのサステナビリティを高めるためにも、ぜひ外部資金の獲得を期待したい。
- ②リソースパーソンの組織化はどのようになされるのか。
- ③10 年を振り返り次の 10 年に向けたビジョンを作成してください。
- ④定期的な外部評価が行われ、資料の整理もよく、また評価しやすい形式は高く評価できる。
- ⑤外部評価については口頭で申し上げた通り。

(編集者追記：口頭での内容は、次項の講評のまとめを参照)

- ⑥先生方のご努力に敬服いたします。

3. 外部評価委員の講評のまとめ

PDCA サイクルによるセンター運営を行う上で重要な外部評価を受けた。5 名の外部評価委員は、昨年に引き続き、大学教育の専門家、IPE に精通し IPE 国際センターを有している他大学の教員、県内の IPE を実施している大学の教員、県内の地方自治体の保健福祉分野の行政職、亥鼻 IPE の協力者という多方面からご参集いただいた。以下、外部評価委員の評価・コメントを踏まえて今後の課題を記載した。

(1) 教育について

教育に関しての目標達成への評価点の平均点は、2.3 であった。

講評においても、教育については規模も受け入れ体制も充実し、順調な成果が上がっており計画的に進められているとの評価を受けた。また、工学部学生の参加が予定されたことや、クリニカル IPE に 45 名の学生が参加したことについても評価を受けた。

一方、アンケートを活用した教育の課題の集約と改善に関しては、根拠となる資料を提示しなかったため、PDCA プロセスが外部に見えるように評価資料を整えてほしいとの要望が出された。各 Step 終了後に、運営会を開催し、授業評価アンケートや教員へのアンケートを資料提示した上で今後の改善を図ってきているので、今後は外部にもそのプロセスが説明できるような説明をしていくことが課題である。特に学生の満足度に関して評価委員からの質問があり、学生の意見や希望をどのように取り入れて、プログラム改善をしていけるかが問われていると認識した。

また、クリニカル IPE の必修化に向けての考えを問われた。学部間の調整においてかなり難しい課題を抱えているが、引き続き検討を重ねていく。

FD に関しては、教員や臨床現場の指導者へのトレーニングの必要性に関して、IPE コンピテンシーを明確にする必要があるのではないかという意見が出された。これについては、研究によってある程度の明確化はできているが、その教育手法が標準化されていないので、亥鼻 FD プロジェクトの学習会を通じて研修の機会をもち、進めていく方針を説明した。

（２）実践・社会貢献について

実践・社会貢献に関しての評価点の平均点は、**2.16** 点であった。講評においてはおおむね良い評価が得られた。

HP の充実重要であり、事業の方向性や実績について外部の機関の方々は結局 HP をみて判断していくので、力を入れる必要があるとの助言を受けた。今後も英語版の充実を含めて改善をしていく必要がある。

千葉市の東千葉地区で行っている住民の自主組織活動に関して、評価委員から関心と期待の意見が出た。住民側から、学生との交流を求める声が上がっており、現在は大学院の IPE プログラムの中で住民に協力いただくという形でかかわっていただいているが、今後学部教育における IPE にも参加いただく機会が持てないかをできる範囲で試みていく。

また、外部資金の獲得に関しては、今後高機能化の経費が終了した後の構想について問われた。目標達成をしていくことによって、大学にこの IPERC がなくてはならない機関であることを訴えていくことが重要であるとともに、他の外部資金の獲得に向けての動きを起こしていく必要がある。そのために、国が後押ししている医療と介護の連携に関わる基金の人材育成に関わる事業が重要ポイントとなっているので、自治体と連携して資金獲得を狙っていくという方法も念頭に置くべきとの助言をいただいた。

（３）研究について

研究に関しての目標達成への評価点の平均点は、**2.04** であった。

卒業時追跡調査、プロジェクト研究等への期待がコメントとしてあり、今後も継続して進めていく。英語での論文発表については高く評価するとのコメントがあり、今後も海外学会での発表や英語論文投稿に努力していく。

（４）組織運営について

組織運営に関しての目標達成への評価点の平均点は、**2.23** であった。

講評として、外部評価の在り方について意見があった。昨年度も今年度も、計画の実施評価はかなり細かくしっかりとされているが、いずれ大学院化を考えているとのビジョンがあり、それに向けて評価もプロセス評価をしていく必要があるとの意見であった。つまり目標に向けた事業設計になっているか、あるいは目標自体が適切であるか、効率性からみてどうか、費用対効果がどうか、などの観点からの評価が必要である。来年度は中間目標の達成年度であるので、この観点を念頭に置いた評価を検討する。

V. 資料

(資料1) IPERC 事業目標

	長期目標(2015～2019)	中期目標(2015～2017)	短期目標(2016)
教育	1) 玄鼻 IPE の発展・進化	(1) 玄鼻 IPE の改定、安定的実施	① Step2・3に外部 FT 導入を継続して実施する。
			② ターム制の初年度の実施状況を踏まえ、2017 年度以降の科目開始時期を検討する。
	2) 新たな IPE プログラムの開発	(2) クリニカル IPE の実施	③ Step1 および Step3へのテレビ会議システムの活用を踏まえ、さらに活用機会を拡大する。
			④ 授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「玄鼻 IPE」プログラムを検討する。
			① 診療参加型 IPE の施行を大学病院で実施する。
			① レスター大学への学生短期留学および玄鼻 IPE との単位互換の準備を行う。
	3) FDの充実	(1) 海外との交流	② 全学企画のマヒドン大学での IPE 学生短期留学について学生に情報提供する。
			① 千葉県内薬学系大学のコンソーシアムに協力する。
			② 千葉県内の保健医療福祉系の大学との連携を模索する。
			IPE を取り入れた災害看護学の大学院教育に参加する。
実践・社会貢献	1) IPE 研究拠点からの発信	(1) 「玄鼻 IPE」の FT 養成プログラム	千葉県立保健医療大学の学生が STEP3 に参加した実績を踏まえ、さらに充実に図る。
			Step1～3の FT 研修(FD)を実施する。
	2) IPW の促進	(2) 玄鼻 IPE の安定的な FT 確保の組織化	3 学部それぞれでルール化した玄鼻 IPE への参加ルールを守り実施する。
			① HPを充実させる。
	3) 政策提言	(1) IPE の FT やコンサルテーション、広報活動	② 他大学や海外からの問い合わせに応じて情報発信を行う。
			③ 他大学や海外からの問い合わせに応じて情報発信を行う。
	2) IPW の促進	(1) 大学病院の IPW 改善	大学病院や総合病院、地域医療等の職員への研修プログラムを作成し実施する。
			千葉県(千葉市)の地域連携の実際および、地域連携を担う専門職育成に協力する。
	3) 政策提言	(2) 千葉の地域包括ケアシステム構築	IPE/IPW に関連する関係団体等(各種学術学会、チーム医療推進協議会、厚生労働省、文部科学省等)との関係づくりを行う。
			① 玄鼻 IPE 卒業生追跡調査の継続とデータ分析による成果発表を行う。
研究	IPE/IPWの理論化・体系化、専門職連携学の構築	研究プロジェクト・チームを複数設置し、研究を企画・遂行。研究チームの組織化	② 玄鼻 IPE の教育評価研究を継続しデータ分析による成果発表を行う。
			③ IPE テキスト(図書)を執筆し出版する。
			④ IPE プロジェクト研究事業を継続する。・プロジェクト研究Ⅰ:公募による研究員の自発的 IPE 関係研究・プロジェクト研究Ⅱ:附属病院の研究員によるせん妄チーム研究・プロジェクト研究Ⅲ:災害時専門職連携実践能力の獲得を目指した教育プログラム開発
			⑤ 研究発表と論文文化
	1) 予算と人材確保	(1) 外部資金を恒常的に獲得	① 学長裁量経費(教育事業)の獲得
			② 科学研究費補助金の獲得
	2) PDCA サイクルに基づく組織運営	(2) リソースパーソン組織化	学内リソースパーソンおよび学外リソースパーソンをリスト化し、科目に応じた説明会あるいは研修を行う。
			① 運営委員会の開催
	3) IPERC の将来構想	PDCA サイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正	② 教育実践研究部会の開催
			③ 玄鼻 IPE Step1～4の運営会の開催
組織運営	1) 予算と人材確保	(1) 外部資金を恒常的に獲得	④ 外部評価委員会の開催
			① 各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行い、その成果を明確にする。
	2) PDCA サイクルに基づく組織運営	(2) リソースパーソン組織化	
	3) IPERC の将来構想	PDCA サイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正	
	1) 予算と人材確保	(1) 外部資金を恒常的に獲得	
	2) PDCA サイクルに基づく組織運営	(2) リソースパーソン組織化	
	3) IPERC の将来構想	PDCA サイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正	

(資料2) 学習のまとめ (別冊)

(資料3) 玄鼻 IPE 数値実績

受講学生数 (総計8,994名)

年次	Step1			Step2			Step3			Step4			クリニカルIPE			合計
	医学部 (附属病院 医師含む)	看護学部	薬学部	医学部	看護学部	薬学部	医学部	看護学部	薬学部	医学部	看護学部	薬学部	医学部	看護学部	薬学部	
2007~2010	415	335	328	1078	302	249	794	199	163	93	455	95	89	41	225	2552
2011	113	84	86	283	119	86	289	103	84	39	226	102	76	43	221	1019
2012	117	85	88	290	115	80	282	119	83	37	239	101	85	38	224	1035
2013	118	84	88	290	116	86	291	123	83	44	250	123	85	35	243	1074
2014	119	84	83	286	117	83	287	120	81	50	251	124	81	49	254	1078
2015	121	83	87	291	116	85	284	130	83	46	275	113	83	42	238	1099
2016	119	80	84	283	119	84	290	123	85	52	265	131	83	40	254	1137

協力教員及び外部機関専門職 ※IPEC教員 (過去のIPEワーキンググループ教員) を除く (総計1035名)

年次	Step1			Step2			Step3		
	医学部 (附属病院 医師含む)	看護学部	薬学部	医学部 (附属病院 医師含む)	看護学部	薬学部	医学部 (附属病院 医師含む)	看護学部	薬学部
2007~2010	31	44	37	112	-	-	0	-	0
2011	8	10	10	28	-	-	0	-	0
2012	8	11	9	28	-	-	0	-	0
2013	13	14	13	40	4	6	15	4	6
2014	12	15	15	42	5	7	17	4	10
2015	17	12	6	35	7	6	22	15	8
2016	16	10	7	33	6	7	20	7	13

年次	Step4													クリニカルIPE						合計
	医学部 (附属病院 医師含む)	看護学部	薬学部	附属病院（医師以外）										医学部 (附属病院 医師含む)	看護学部	薬学部	附属病院			
				看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー	遺伝カウンセラー	管理栄養士	計				看護師	薬剤師	計	
2007~2010	12	10	3	10	3	3	3	2	2	6	1	1	4	58	-	-	-	170		
2011	11	12	3	12	3	3	3	2	2	3	1	1	2	56	-	-	-	84		
2012	10	7	3	7	3	2	3	1	4	1	1	1	4	46	-	-	-	74		
2013	14	9	3	9	2	3	3	1	5	1	2	2	4	56	-	-	-	126		
2014	12	9	3	9	3	3	3	1	5	1	1	1	4	54	-	-	-	176		
2015	16	9	4	9	3	3	3	2	4	1	1	1	4	59	4	4	1	203		
2016	9	9	7	8	3	3	3	2	7	0	1	1	4	56	15	5	2	202		

協力TA [大学院生] (総計209名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				合計
	医学研究院	看護学部医科	薬学研究院	計	医学研究院	看護学部医科	薬学研究院	計	医学研究院	看護学部医科	薬学研究院	計	医学研究院	看護学部医科	薬学研究院	計	
2007～2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	1	2	1	4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	2	3	1	6	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	1	1	3	0	5	12

実習協力施設 (総計501施設)

年次	Step1				Step2				クリニカルPE		合計
	病院	病院	診療所・クリニック	薬局	訪問看護ステーション	回復期リハビリテーション病棟	保健機関・介護福祉施設	計	附属病院	診療科	
2007～2010	24	15	32	52	25	-	21	145	-	-	169
2011	6	5	11	15	11	-	8	50	-	-	56
2012	6	5	9	22	9	-	4	49	-	-	55
2013	6	6	12	21	6	-	3	48	-	-	54
2014	7	6	11	17	6	3	2	45	-	-	52
2015	6	6	11	15	5	4	3	44	2	2	52
2016	6	7	11	15	5	6	3	47	10	10	63

FD/SDの参加者数 (総計957名) *2016～亥鼻FDプロジェクト開始

年次	Step1	Step2	Step3	Step4	*その他	合計
2007～2010	88	44	-	28	105	265
2011	17	33	-	23	-	73
2012	17	31	-	17	-	65
2013	20	17	-	25	-	62
2014	31	15	61	25	-	132
2015	10	71	52	24	22	179
2016	21	42	29	35	54	181

(資料4) 平成28年度 試行事業報告 クリニカル IPE (別冊)

(資料5) 地域貢献事業実績

他大学への協力

	依頼内容の種類	依頼主	依頼内容	対応	日	時間帯	場所	対応者
1	講義（講師派遣）：他大 学	M大学	M大学薬学部開講科目の授業依頼	M大学薬学部開講科目（選択）の授業「専門職連携教育を担う薬剤師の立場から」を実施 対し、薬剤師の業務と専門職連携の意義、千葉大学における専門職連携教育カリキュラムの紹介	6月15日	午前中1コマ	M大学講義室	関根祐子
2	講義（講師派遣）：他大 学	北海道医療大学	看護福祉学部FD研修	講義とワークショップ「多職種連携教育を効果的に進めるために」	7月25日	16:00～17:50	北海道医療大学	酒井郁子 黒河内仙奈
3	コンサルテーション（授 業視察）	大阪薬科大学	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応および授業後のデブリーフィング	9月14日～9月16日 9月20日～9月23日	8:50～16:00	千葉大学CCSC	酒井郁子 朝比奈真由美 井出成美
4	コンサルテーション（授 業視察）	特定非営利活動法人 薬剤師緊急 急対応研修機構	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応	9月15日	8:50～16:00	千葉大学CCSC	酒井郁子 朝比奈真由美 井出成美
5	コンサルテーション（授 業視察）	愛知医科大学	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応および授業後のデブリーフィング	9月21日 9月23日	8:50～16:00 13:00～16:00	千葉大学CCSC	酒井郁子 朝比奈真由美 井出成美
6	コンサルテーション（授 業視察）	東京医科歯科大学	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応	9月16日	13:00～16:00	千葉大学CCSC	酒井郁子 朝比奈真由美 井出成美
7	コンサルテーション（授 業視察）	日本大学	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応および授業後のデブリーフィング	9月14日～9月16日 9月20日・23日	8:50～16:00	千葉大学CCSC	酒井郁子 朝比奈真由美 井出成美
8	講義（講師派遣）：学内	千葉大学看護学部・大学院看護 学研究科	ガジマダ大学大学院でのIPE導入に 向けたワールドカフェの開催	ワールドカフェ「インドネシアでのPW/IPEの現状を知り、 今後の方策について考える」	11月1日	9:30-12:00	千葉大学大学院看護学 研究科 184 演習室	井出成美 藤沼康樹 黒河内仙奈 白井いづみ
9	コンサルテーション（授 業視察）	大阪薬科大学	IPE Step3の見学依頼	Step3の見学対応および授業後のデブリーフィング	12月26日～12月27日	両日8:50～16:00	千葉大学亥鼻キャンパス （看護学部棟、薬学部棟、医 学棟）	酒井郁子 朝比奈真由美 井出成美
10	コンサルテーション（そ の他の相談）	埼玉県立大学、城西大学、埼玉 医科大学、日本工業大学	左記4大学IPEコンソーシアム事業の外 部評価	レポート提出および委員会出席	3月7日	13:30-15:30	埼玉県立大学	酒井郁子
11	講義（講師派遣）：他大 学	防衛医科大学	講義依頼	114回有事・災害医療検討会に参加し講演「災害時専門 職連携の在り方とその教育」	3月7日	18:00-20:00	防衛医科大学	酒井郁子
12	講義（講師派遣）：学内	中国医科大学	講義依頼	講義「大学病院におけるIPW－せん妄ケアチームの例」	3月14日	9:00-12:00	千葉大学亥鼻キャンパス 看護学部棟	酒井郁子

他機関（大学以外）への協力

依頼内容の種類	依頼主	依頼内容	対応	日	時間帯	場所	対応者
1 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	日本血管看護研究会	第1回日本血管看護研究会での講演依頼	特別講演 「専門職連携教育-多職種が共に学ぶ」ということ」	5月27日	15：30～16：30	ホテルグランバシ フィックLE DAIBA	酒井郁子
2 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	千葉県習志野健康福祉センター	平成28年度第1回管内保健師業務連絡会における保健師の研修の講師依頼	講義とワークショップ「職場での多職種とのコミュニケーションの原則について」	5月30日	14：00～16：00	千葉県習志野健康 福祉センター	酒井郁子 井出成美 白井いづみ 馬場由美子
3 その他	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔健康教育学分野	課題解決型高度医療人材養成プログラム外部評価	課題解決型高度医療人材養成プログラム外部評価	6月20日	午前中2時間	東京医科歯科大学 1号館東7階歯学部 会議室	朝比奈真由美
4 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	千葉県立東葛飾高校	医学部・看護学部・薬学部志望の学生向けのIPEワークショップの依頼	ワークショップ「IPEについて、医療者のプロフェッショナルリズム、キャリアを考える」	7月7日	9：00～11：00	千葉大学医学部 のはな同窓会館	朝比奈真由美 酒井郁子 関根祐子
5 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター	東京大学医学教育セミナーでの講演依頼	講義「IPEの歴史・理論・多様なプロジェクトからみた日本への実装の現状と課題」	9月29日	18：00～19：30	東京大学医学部総 合中央館3階333 会議室	酒井郁子
6 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	金沢大学附属病院	医師、看護師、他コメディカル向けの研修講師依頼	講義「せん妄などで、意思疎通を図りにくい患者に用いられ易い、身体抑制の有害性を知る」	11月4日	15：00～16：30 17：15～18：45	金沢大学附属病院 外来診療棟4階 金大CPDセンター	酒井郁子
7 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	一般社団法人 横浜市都筑区医師会	在宅事業部門各事業所の職員向け研修	看護師・介護福祉士・ヘルパー・介護支援専門員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等を対象に、「より良いケアのために自分ができること」ワークショップ	11月26日	13:30-16:50	横浜市都筑区医師 会館	井出成美 白井いづみ 馬場由美子
8 コンサルテーション（カリキュラムに関する相談）	日本看護系大学協議会（JANPU）	カリキュラムに関する相談	資料提供	12月		千葉大学看護学部 小会議室	酒井郁子 眞嶋朋子
9 コンサルテーション（カリキュラムに関する相談）	ユニコ インターナショナル株式会社	国際協力機構（JICA）の円借款プロジェクトによる、インドネシア大学の医学部学部棟並びに付属病院の建設及び立ち上げのオーナー側のコンサルタントとしての助勢業務への情報提供	資料提供	1月13日	10:30-11:30	千葉大学看護学部 184演習室	酒井郁子
10 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	千葉県健康福祉部高齢者福祉課 認知症対策推進班	県内全域の専門職を対象とした多職種協働研修の講師依頼	講演「多職種協働の必要性と具体的な方法について」 ワークショップ「円滑な多職種連携に向けた取り組み」	2月4日	10:00～16:15	千葉県青少年女性 会館	酒井郁子 井出成美 白井いづみ 馬場由美子
11 講義（講師派遣）：大学 以外の他機関	千葉県立野田看護専門学校	学生及び教職員対象の特別講演会講師	講義「社会の変化に対応する多職種連携」	3月7日	13:05～14:35	千葉県立野田看護 専門学校	井出成美

発信方法	学会名・発信媒体	発信形態	テーマ・内容	日・ち	時間帯	場所	対応者
1 雑誌記事掲載	株式会社エニクリエイティブ	薬学生・薬剤師向け情報誌「ミル」 MIL掲載2016Vol.67の取材	日本薬学会第136年会 一般シンポジウム 徹底討論！多職種連携教育（IPE）は薬学教育に何をもたらすのか	4月20日（発行）			酒井郁子
2 新聞掲載	薬事日報社	「薬事日報」記事掲載	記事執筆「薬学教育にIPE導入を」	5月11日（掲載日）			石井伊都子
3 病院見学会	千葉大学医学部後援会	説明会	医学部学生の家族を対象とした病院見学会においてIPEの説明	6月25日	午前中15分間	千葉大学医学部附属病院ガーネット	朝比奈真由美
4 雑誌記事掲載	旺文社	蟹雪時代 2016年9月号の取材	大学のアクティブ・ラーニング・最前線 千葉大学 玄島IPE紹介	8月12日（掲載日）			酒井郁子
5 学会	千葉看護学会	第22回学術集会での交流集会実施	交流集会に応募「介護・福祉職との連携において看護職に求められる能力・態度～看護職の研修・教育プログラムに必要な要素とは～」	9月10日	14：20～15：15	千葉大学看護学部 セミナー室2	井出成美 白井いつみ 馬場由美子

(資料6) プロジェクト研究共同研究員募集要項

平成28年度千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

プロジェクト研究共同研究員募集要項

1. 目的

個人又は複数の共同研究員と千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター教員が研究プロジェクトを形成し、専門職連携学を迫及する教育分野および実践分野に関する調査研究を行なう。

2. 募集する研究プロジェクト名 別紙1のとおり

3. 研究期間 平成28年7月1日から平成29年3月31日

本プロジェクト研究は年度ごとに募集し実施するものであり、次年度以降の継続応募も可能である。

4. 募集定員 各10名程度

5. 応募資格

大学の教員で専門職連携教育および実践に関心があり、プロジェクト研究の課題に主体的に取り組むことのできる方保健医療福祉分野に関わる専門職で、専門職連携実践および教育に関心があり、プロジェクト研究の課題に主体的に取り組むことができる方千葉大学大学院看護学研究科・医学研究院・薬学研究院・医学部附属病院の教職員

6. 応募方法

学外者は応募申込書（別紙2）を下記に提出すること。千葉大学大学院看護学研究科・医学研究院・薬学研究院・医学部附属病院の教職員は、プロジェクト名と氏名を下記に提出すること。

提出先 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部（センター事業支援係）

提出期限 平成28年6月15日（水）必着のこと。

※ 実施要項及び応募申込書（別紙2）については、千葉大学看護学部ホームページ、附属専門職連携教育研究センターホームページに掲載しております。

7. 採否通知

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センターで採否を決定した後、本人宛に通知する。

8. 研究経費

研究実施に要する交通費は自己負担とする。

（今後、科研など研究助成金の申請をプロジェクト研究参加者とともに行う予定である。）

9. 研究終了の報告

研究終了後、研究代表者はプロジェクト研究実施報告を平成29年3月末までに、専門職連携教育研究センター長に提出するものとする。

問い合わせ先

本研究に関する問い合わせ先は、下記のとおり。

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部（センター事業支援係） 松橋・齋藤

TEL 043-226-2464 FAX 043-226-2382

E-mail tab5652@office.chiba-u.jp

(資料 7) 平成 28 年度研究業績

<原著>

1. Sakai I, Yamamoto T, Takahashi Y, Maeda T, Kunii Y, Kurokuchi K: Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29). Journal of Interprofessional Care. 1-7, 2016. DOI:10.1080/13561820.2016.1233943
2. 高橋在也, 岩城典子, 長江弘子, 石丸美奈, 清水直美, 吉本照子: 生き方の理解と支えあいのための場の模索-エンドオブライフを考える市民参加型プログラムの事例から-. 生命倫理, 27, 159-168, 2016.

<学会発表抄録>

3. 酒井郁子: 回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装システムに向けた課題. 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会プログラム・抄録集, 127, 2016.
4. 松平裕佳, 黒河内仙奈, 酒井郁子, 深堀浩樹, 松岡千代: 回復期リハビリテーション病棟の EBP 実装における情報収集のための組織的支援. 日本老年看護学会第 21 回学術集会抄録集, 117, 2016.
5. 郷保はるみ, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 回復期リハビリテーション病棟における患者の生活リズムを整えるケアの構築. 日本老年看護学会第 21 回学術集会抄録集, 130, 2016.
6. 大塚真理子, 下井俊典, 春田敦志, 酒井郁子, 神山裕美, 畔上光代, 小林毅, 藤林慶子, 相馬仁: IPE 推進委員会ワークショップ IPE/IPW のための専門職連携コンピテンスを考える (第 4 回). 第 9 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 26, 2016.
7. 眞嶋朋子, 山本武志, 池崎澄江, 長坂育代, 渡邊美和, 増島麻里子, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 山田響子, 大塚知子, 酒井郁子: 大学病院の集中治療室・手術室と他部門の職種別専門職連携実践能力と職務満足と比較-6 因子の特徴に焦点を当てて-, 千葉看第 22 回学術集会抄録集, 37, 2016.
8. 井出成美, 藤沼康樹, 臼井いづみ, 馬場由美子, 酒井郁子: 介護・福祉職との連携において看護職に求められる能力・態度-看護職の研修・教育プログラムに必要な要素とは-, 千葉看第 22 回学術集会抄録集, 52, 2016.
9. 下井俊典, 大塚真理子, 春田敦志, 酒井郁子, 神山裕美, 小林毅: シンポジウムⅡ連携教育の現状と課題リハビリテーションを担う職種を育てる IPE. 日本リハビリテーション連携科学 17 (1), 70-72, 2016.
10. Asahina M, Otsuka M, Kurokuchi K, Sekine Y, Ito S, Sakai I: Clinical IPE Interprofessional education in a point-of-care setting. AMEE 2016 Barcelona, Spain, 2016.
11. Otsuka M, Ishimaru M, Iino R, Takeuchi K, Fujinuma Y, Yamada K, Asahina M, Ito S, Sekine Y, Sakai I: Factors of promoting independent community activities by residents in the suburbs of the Greater Tokyo Area: Based on resident interviews. The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, Korea, Busan, 2016.
12. Iino R, Otsuka M, Ishimaru M, Takeuchi K, Fujinuma Y, Yamada K, Asahina M, Ito S, Sekine Y, Sakai I: Factors of promoting independent community activities by residents in the suburbs of the Greater Tokyo Area: Based on professional interviews. The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, Korea, Busan, 2016.
13. 増島麻里子, 長坂育代, 池崎澄江, 渡邊美和, 酒井郁子, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 山田響子, 山本武志, 大塚知子, 眞嶋朋子: がん診療連携拠点病院における病棟の専門職連携実践と緩和ケアチームへのコンサルテーションとの関連. S287, 第 21 回日本緩和ケア医療学会学術大会, Vol.11 Suppl, 2016.
14. 酒井郁子, 原祥子: 日本老年看護学会誌の査読方針よい査読をしよう. 日本老年看護学会第 21 回学術集会抄録集 83. 2016.
15. Yukari S, Narumi I, Mai I: Survey about the actual condition of health guidance after health check-ups for citizens over 75 years old in Japan. The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, Busan, South Korea, 2016.
16. 牛久保美津子, 近藤浩子, 菊池沙織, 塚越徳子, 堀越政孝, 常盤洋子, 上山真美, 恩幣宏美, 松崎奈々, 井出成美, 神田清子: 在宅を見据えた看護実践度の調査結果をもとにグループインタビューで見出した在宅の視点を持つ病院看護師育成のための課題, 第 18 回日本在学医学会大会第 21 回日本在宅ケア学会学術集会合同大会プログラム・講演抄録集, 414, 2016.
17. 杉田由加里, 井出成美, 石川麻衣, 池崎澄江, 中山健夫: 自治体における特定保健指導の問診の実態調査 (第 1 報) -特定健診質問票の活用状況-, 第 75 回日公衛会抄録集 63(10), 422, 2016.

18. 井出成美, 杉田由加里, 石川麻衣, 池崎澄江, 中山健夫: 自治体における特定保健指導の問診の実態調査 (第2報) —質問表項目の設定と使用—, 第75 回日公衛会抄録集63(10), 422, 2016.
19. 石川麻衣, 杉田由加里, 井出成美, 池崎澄江, 中山健夫: 自治体における特定保健指導の問診の実態調査 (第3報) —保健行動を把握する上での困難—, 第75 回日公衛会抄録集63(10), 422, 2016.
20. 藤沼康樹: 超高齢化社会と地域医療研修. 第34 回臨床研修研究会講演集, 26-33, 2016
21. 藤沼康樹: プライマリ・ケア外来診療教育の充実で時間的制約があっても社会貢献が可能な意思を要請する. 第7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 122, 2016.
22. 吉田秀平, 松島雅人, 渡邊隆将, 市川欧子, 中野優子, 藤沼康樹: 患者複雑性が医療に及ぼす影響に関するコホート研究. 第7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 225, 2016.
23. 増山由紀子, 清田実穂, 喜瀬守人, 藤沼康樹: Case-based Discussion (CbD) における効果的な事例選択についての検討. 第7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 255, 2016.
24. 関口由希公, 小松亮, 栄原智文, 齋木啓子, 遠井敬大, 齊藤裕之, 高柳亮, 西村真紀, 喜瀬守人, 藤沼康樹: 遠隔型指導医養成フェローシップ (CFMD LTF-distant) の活動報告 ～若手・中堅家庭医はどう成長すればよいか～. 第7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 258, 2016.
25. 渡邊隆将, 松島雅人, 藤沼康樹: 研究第3 報: EMPOWER-Japan Study (Elderly Mortality Patients Observed Within the Existing Residence). 第7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 291, 2016.
26. 重島祐介, 佐藤葵, 藤沼康樹: 家庭医診療科外来活動報告. 第7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 331, 2016.
27. 藤沼康樹: 招待講演 専門医教育の未来像. 第21 回日本緩和医療学会学術大会抄録集, 26, 2016.
28. 藤沼康樹: 地域基盤型医学教育の質の向上、展望を考える 地域基盤型医学教育の構成要素. 第48 回日本医学教育学会大会抄録集, 医学教育, 47(Suppl), 30 2016.
29. 藤沼康樹: 招待講演 プライマリ・ケアの愉しみと生涯学習. 第5 回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会抄録集, 4, 2016.
30. 高橋在也: 無力な人のカ-トラウマの時代におけるジョルジュ・ルオーの再解釈-. 総合人間学会第10 回研究大会抄録集, 21. 2016.
31. Takahashi Z., Nagae H. & Iwaki N. : How we turn knowledge into transformation of ourselves; Mixed Method Research on the Citizen Participatory Learning Program on End-of-life Care. Mixed Method International Research Association Conference, 111-112. 3-6th August 2016, Durham, UK.
32. 高橋在也: 無力な人のカ-暴力の時代におけるジョルジュ・ルオーの再解釈-. 唯物論研究協会第39 回研究大会抄録集, 25. 2016.
33. 高橋在也, 長江弘子: 日本における望ましい死の概念. 日本生命倫理学会第28 回年次大会抄録集, 2016.
34. 臼井いづみ, 長田久夫, 坂上明子, 石川源, 齋藤美貴, 青木まり子: Team STEPPS® を取り入れた周産期急変対応ワークショッププログラムの開発, 第57 回日本母性衛生学会学術集会抄録集, 57(3), 298, 2016.
35. 坂上明子, 長田久夫, 臼井いづみ, 鈴木真, 石川源, 齋藤美貴, 青木まり子: Team STEPPS® を取り入れた周産期急変対応ワークショップの評価—参加者への質問紙調査の分析—. 第57 回日本母性衛生学会学術集会抄録集, 57(3), 298, 2016.
36. 橋内伸介, 金井有佳, 松田知佳, 小坂直子, 阿部由喜湖, 平舘卓弥, 馬場由美子, 永田亜希子, 田村富美子, 山本利江: クリティカルケア領域における人工呼吸器離脱過程に関する研究—生命力の概念枠組みに基づく離脱困難患者への実践の分析—. 第38 回日本呼吸療法医学会学術集会抄録集, 199, 2016.
37. 山田響子: ヘルス・プロモーション・スクール認証/表彰制度の国際比較—日本・シンガポール・香港・韓国・台湾—. 第25 回日本健康教育学会学術大会講演集, 59, 2016.
38. 山田響子: “思春期の子供の居場所” にかかわる人材のコンピテンシーと育成プログラムの検討. 日本教育社会学会第68 回大会発表要旨集録, III-1-3, 2016.
39. 山田響子: 時間的展望と自己肯定感の相関— 未来志向性が自己肯定感の6 因子に与える影響の検討—. 日本教育心理学会第58 回総会発表論文集, PG58, 2016.

<単行書>

40. 鷺見幸彦, 町屋晴美, 酒井郁子, 北川公子, 高山成子, 高橋裕子, 松本佐知子, 小林友美, 齋藤訓子, 溝上祐子, 島橋誠 (編集): 認知症ケアガイドブック. 照林社. 2016.
41. 酒井郁子: 特集/リハビリテーション看護—看護実践のエビデンスと可能性— リハビリテーション看護のエビデンス. MEDICAL REHABILITATION No.201 リハビリテーション看護—看護実践のエビデンスと可能性—. 全日本病院出版会. 1-6. 2016.
42. 井出成美: 老年看護に活用できる理論・アプローチ 8. エンパワメント. 正木治恵, 真田弘美 (編), 老年看護学概論, 改訂第2 版, 南江堂, 156-161, 2016.
43. 藤沼康樹: 包括的統合アプローチ. 総合診療専門研修の手引き— 何をどう教え学ぶか 工夫と実例 (総合診療専門医シリーズ) p42-52, 中山書店, 2016
44. 藤沼康樹: 将来お医師集団とキャリア開発の変化に備えた医学教育. 人工知能時代の医療と医学教育. p103-110, 篠原出版新社, 2016
45. 高橋在也: 日本における望ましい死の概念, 長江弘子編, 患者中心の意思決定支援, 南江堂. 2016.

<総説・短報・実践報告・資料・その他>

46. Haruta J, Sakai I, Otsuka M, Yoshimoto H, Yoshida K, Goto M, Shimoi T: Development of an interprofessional competency framework in Japan. Journal of Interprofessional Care, 30: 5, 675-677, 2016.
47. 杉林堅次, 石井伊都子, 細谷治, 木内祐二, 前野哲博, 酒井郁子, 荒川直子: 次世代の薬学への羅針盤～新しい薬学への出帆～徹底討論多職種連携教育 (IPE) は薬学教育に何をもたらすのか. MISSION IN LIFE MIL [ミル] spring 2016 67. 株式会社メデル. 10, 2016.
48. 酒井郁子: 千葉大学亥鼻 IPE 医・看護・薬 3 学部専門職連携教育プログラム 3 学部の学生たちがともに学びあうことで専門職同士が連携する能力を身につける. 蛭雪時代, 2016 September 9, 旺文社, 162-163, 2016.
49. 朝比奈真由美, 大塚真理子, 黒河内仙奈, 眞島朋子, 関根祐子, 伊藤彰一, 酒井郁子: 臨床実習における専門職連携教育 (Clinical IPE). 医学教育, 47 巻 Suppl, 185, 2016.
50. 藤沼康樹: 看護研究が医師にとって意味あるものとなる場面. 看護研究 49(7), 576-580
51. 藤沼康樹: 星の数ほどの practice based research network を. 総合診療 26.4, 277-277, 2016
52. 高橋在也: エンド・オブ・ライフケアと “good death” 概念. 看護技術, 62(12), 10-13. 2016.



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまった
亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成
されました。

文部科学省 国立大学改革強化促進補助金

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

平成 28 年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

編集者：酒井郁子、井出成美、藤沼康樹、高橋在也、臼井いづみ、馬場由美子、
山田響子、吉岡智子、高野佳奈

発行日：平成 29（2017）年 3 月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

E-mail：inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めてくださいますよう、お願いいたします。

